

**製品名: LIMK1 (リン酸化 Ser310) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05791**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 WB 1:500-1:2000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	LIMK1
別名	LIM domain kinase 1 (LIMK-1) (EC 2.7.11.1)
遺伝子 ID	3984.0
SwissProt ID	P53667
免疫原	ヒト LIMK1 (リン酸化 Ser310) 由来の合成ペプチド

**背景**

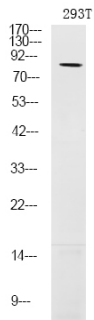
触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。疾患: LIMK1 のハプロ不全は、ウィリアムズ症候群 (WBS) という稀な発達障害にみられる特定の心血管系および筋骨格系の異常の原因である可能性があります。これは、染色体バンド 7q11.23 の遺伝

子が関与する連続遺伝子欠失症候群です。機能: アクチンフィラメントの動態を制御するタンパク質キナーゼ。アクチン結合 / 脱重合因子コフィリンをリン酸化して不活性化することで、アクチン細胞骨格を安定化します。アイソフォーム 3 は、アクチン細胞骨格の変化に対して優性負の作用を及ぼします。脳の発達に関与している可能性があります。PTM: 自己リン酸化。PTM: ROCK1 によってセリンおよび / またはスレオニン残基がリン酸化される。SSH1 によって脱リン酸化され、不活性化される可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1 つの PDZ (DHR) ドメインを含みます。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性: 2 つの LIM 亜鉛結合ドメインを含みます。サブユニット: 自己会合します。LIM ドメインは NRG1 の細胞質ドメインと相互作用します。ROCK1 に結合します。SSH1 と相互作用します。NISCH と相互作用します。組織特異性: 成体および胎児の神経系の両方で最も高い発現を示します。成体脳のさまざまな領域に遍在的に検出され、大脳皮質で最も高いレベルを示します。心臓および骨格筋では、より低い発現を示します。

## 研究分野

神経科学

## 画像データ



293T のウェスタンブロット分析。一次抗体は 1:1000 希釈で 4°C、一晩。二次抗体は 1:10000 希釈で 25°C、1.5 時間。